第224号　　月刊 住宅情報誌 躍 進　2021年（令和3年）8月1日（日）

1　羅針盤　良い習慣や心掛けを実践する
3　大雨被害には必ず防蟻、防カビ施工を！
4　高い評価の調査精度
6　発売2年目もますます好評
8　木材劣化診断士の活躍に期待
9　トイレを考える

良い習慣や心掛けを実践する

羅針盤

(株)躍進
代表取締役
笠井輝夫

時間革命に挑戦

万人に平等に与えられた恵みは、1日24時間という時間です。言うまでもなく、時間の使い方で、その人の人生が決まると言っても過言ではありません。

では、自分は時間管理が完璧にできているかというと、まだまだでしょう。それでも、毎朝4時から5時に目覚まし無しで、ほぼ体内時計だけで目覚める習慣ができています。

そして、だいたい7時までには、昨日届いたメールをチェックし、返信等を終わらせます。続いて、今日のスケジュール、重点課題、行動計画の確認と見直し、修正等を済ませ、一日の準備をするのです。同時に、ブログへの記事アップとホームページの更新、全社員への事項伝達を行い、情報を共有しています。

この朝の3時間集中によって、一日の仕事は極めてはかどります。まさに有意義な時間なのです。このルーティンは3年ぐらい継続しています。

そして、出社後における経営の課題と業務遂行に関しては、創意工夫を施し、有意義な時間を作り出すために日々試行錯誤している途上にあります。

このように、時間革命に挑戦しているのは、生死を分ける大病を乗り越えたことがきっかけです。また、知人や友人の死にも直面し、貴重な時間を一瞬たりとも無駄にはできない、「一日一生」の如く悔いない一日を過ごそうと思うようになったのです。

まずは、劣後順位に従って、無駄を省くように心がけ、ビジネスにおける約束面談も、時間通りに実施し、簡潔に目的を果たすようにしています。

「今日が最高の日」を連続させる

そして、時間を大事に使うことと同時に、物事は、「シンプルに分かりやすく」を心掛け、生き方も「シンプルライフ×シンプルスタイル」を意識して、喜び生活、喜び仕事、喜び人生をテーマに、人生そのものを楽しむようにしています。

さらに、「昨日より今日、今日より明日をより良く生きること」を強く意識しています。そして、「今日が自己新記録の最高の日」と言える積み重ねをするために、今年1月1日から10年日記を書き始めているのです。それは、2030年までの日記です。文字通り、「今日が今までで最高の日である」ことを記録していくためのものなのです。

「今日が今までで最高の日である」ことを連続させるのは大変ですが、私は、最悪なことが起こっても、動揺せず、常に冷静な判断で対処すれば、問題解決ができたその日が、最高の日になると思っています。

日々誰しもが問題に直面します。問題に気づくか否かは、その人の価値観や生き方によって異なります。特に、経営者は、常に危機感を持って周りを見渡し、事に当たらねば、会社を揺るがすような問題を見逃してしまうのです。それでは、経営者として失格です。

ビジネスにおいては、「信頼残高」の蓄積拡大に努めなければなりませんが、油断は禁物です。建設は死闘、破壊は一瞬の如く、信用されている時や多少の「信頼残高」がある時は許されても、同様のミスを2度3度繰り返しては、会社を揺るがす事態に発展することを忘れてはいけません。

このように、問題が起きた時には、原因を明らかにして解決し、同じ繰り返しをしないように改善しなければなりません。
改善を疎かにすると、後から雪崩のように問題が押し寄せてきます。その時には手遅れになることもあるのです。そうならないためにも、問題は、即刻解決改善に努め、環境悪化に危機感を募らせることが、自分自身に課せられた重要課題なのです。

誰しも、嫌なこと、面倒くさいことには目を背け、逃げてしまうものですが、問題解決改善ほど、自己を鍛え磨ける実践の舞台はないのです。一番成長できる実践の舞台を、自ら放棄することは極めて残念です。

そして、徳と運とチャンスは、こうした良い習慣や心掛けが元になって生まれる善行を積むことによって得られると、肝に銘じておきましょう。

大雨被害には必ず防蟻、防カビ施工を！

毎年、全国各地で甚大な被害をもたらす大雨ですが、いまや台風やゲリラ豪雨を含め、大雨被害のない年はないといってもよい時代になりました。

こうした被害の復旧作業において、絶対に忘れてならないのが、防菌・防蟻・防腐処理です。

床下の後処理が重要

一般に、大雨被害が、床上浸水にまで及ばずに床下浸水で留まっていると安心してしまうものですが、それは大きな落とし穴です。

そして、生活空間である床上には、清掃の後、防菌処理をしますが、床下にまで後処理が及ばないことが多いのです。しかし、床下の後処理こそ極めて重要なのです。

水が引き、床上の汚泥は取り除くことはできても、床下の汚泥は、なかなか取り出すことができません。しかし、そこで「日常生活に支障がない」などと判断して、そのままにしてはいけないのです。

汚泥は、異様な悪臭を放ちます。その悪臭の原因となっているのがカビや細菌です。それは、感染症の原因にもなるのです。

そして、**汚泥は、間違いなく土台や束などをはじめとする床下の木材を腐食します。さらに、金具部分にも錆を発生させるのです。**

また、汚泥を排出・清掃し、様々な菌を消毒しても、湿気をそのままにしておけば、**シロアリや腐朽菌を発生させることになるのです。**特に、不十分な後処理によって、不要な水分を残しておけば、腐朽菌を繁殖させることになります。

腐朽菌は、土台などの木材の主成分であるセルロースやヘミセルロースなどを分解して、木材を多孔質に変化させ強度を下げるのです。

床下に施した断熱材も、その種類にもよりますが、**水を含んでしまっているので、断熱性能が著しく低下します。**

さらに、床下の電気配線なども総点検しなければなりません。**浸水が原因で傷んだり故障したりして、火災を発生させる可能性があるからです。**

床下は、適切に排水し、徹底的に乾燥させ、確実な消毒を施さなければならないのです。長く住み続けるためには、適切な処置が不可欠なのです。

床下・床上浸水の後処理における適切な防菌・防蟻・防腐処理は、躍進におまかせください。ご連絡をお待ちしています。

高い評価の調査精度

これから台風シーズンを迎え、大雨が予想される日々がまだまだ続きます。そのためには、住まいの雨対策を万全なものにしなければなりません。

そして、もし雨漏りの疑いがあるのなら、サーモグラフィ法による**『赤外線漏水調査システム』**で、必ず調査を実施してください。

散水調査と水張り調査

雨漏りの調査には、一般的に、散水調査と水張り調査があります。

散水調査とは、雨漏りが発生していると思われる箇所に、雨降りの時と同じ状態となるように水を撒き、意図的に雨漏りをさせ、原因を確認する方法です。

また、水張り調査とは、陸屋根の場合に、屋上に水を張って、その水の漏れを確認する調査方法です。

しかし、原因の特定は、熟練したプロですら難しいものです。原因が特定される保証が無いのです。すぐに漏水箇所を発見でき、簡単な処置によって修繕できるケースもあれば、調査を繰り返して、やっと発見できる場合もあります。

原因が特定できなければ、外壁、屋根、防水等の全体改修を実施しなければなりませんが、それではコストも時間も、かかりすぎてしまうのです。

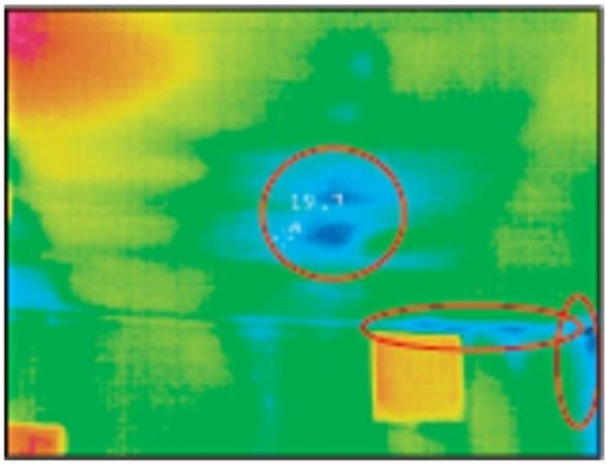
赤外線利用がもたらす確かな評価

専門の調査会社が、調査・補修をくりかえしていながらも、一向に雨漏り被害が改善されないという、そんな悩みを一気に解決したのが、サーモグラフィ法による『赤外線漏水調査システム』です。

赤外線は、温度を持つすべての物体から、その温度に応じた波長分布によって、自然に放射されます。その波長分布を、色画像として示し、様々な状態を分析する装置がサーモグラフィです。そのため、今まで発見できなかった雨漏りの侵入口も、明確に特定することができます。

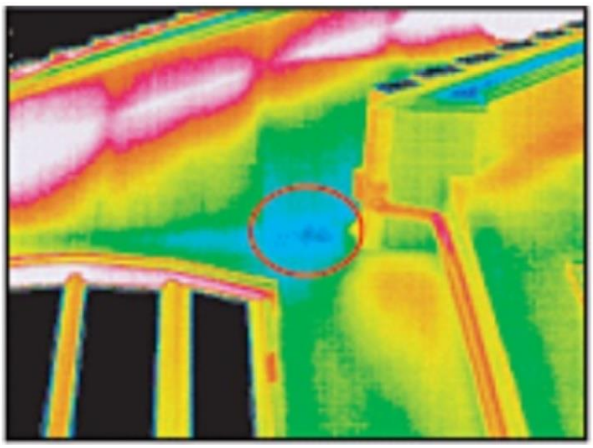
サーモグラフィの特徴は、広い面積を同時に捉えることができるため、モニター上に映し出される温度の相対比較を、ひと目で分析できます。

また、サーモグラフィは、対象物から離れて温度測定ができるため、動いているものや、近づくことができない危険なものでも、簡単に温度計測・分析することができます。



例えば、**上の２枚の写真**は、天井の一部と天井と壁の間が漏水している写真です。
サーモグラフィ上では、部屋全体の温度は、緑色で表示されています。

そして、暖房などで室内が暖まると赤色に変化します。しかし、**漏水箇所は水色で表示される**のです。サーモグラフィ上では、丸で囲った部分には、水色を通り越して、濃い青色が示されており、ここが漏水箇所であることが分かります。



また、**上の２枚の写真**は、外壁に放水後、表面が乾いてから、サーモグラフィで計測したものです。下屋の雨どい脇に、赤外線画像では濃い青色が示され、その部分に水が蓄積していることが確認できるのです。

まさに、『赤外線漏水調査システム』は、熟練のプロの技を確かなものにする最高のアイテムといえます。

雨漏り調査・修繕にかかるコスト・時間を、合理的に縮小・短縮できるのが『赤外線漏水調査システム』です。まさに、赤外線利用がもたらす高い調査精度が、確かな評価につながっているのです。

ご依頼、お問い合わせは、躍進までお気軽に。ご連絡をお待ちしております。

発売2年目もますます好評　スカイコートW　水系ウレタン樹脂

タイル仕上げの魅力を生かす

昨年より躍進がご案内している、強靭で柔軟な被膜を形成するタイル張り面の透明外壁防水材『**スカイコートW**』が、発売2年目に入りました。ますますご好評をいただいており、ご注文、問い合わせが多く寄せられています。

透明度の高い水系ウレタン樹脂を主成分とした、1液型外壁用透明防水材です。透明な塗膜なので、タイル仕上げの意匠性をそのままに、雨水の侵入を防ぐことができます。

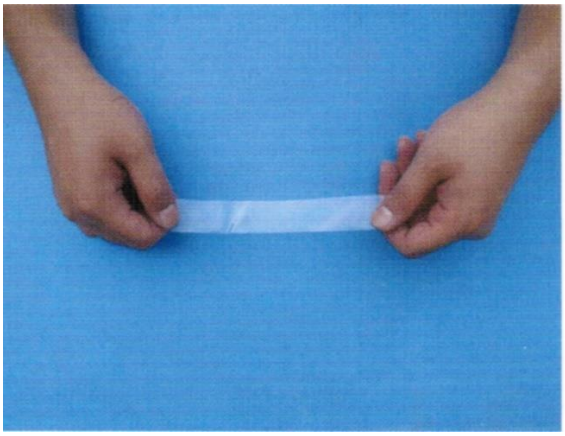
オール水系

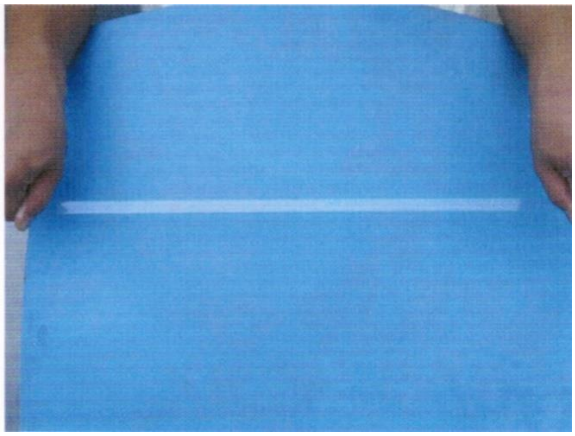
プライマーを含め、すべての構成材料は水系であり、危険物を一切含んでいないため、引火や中毒の危険がなく、居住者・作業者・環境にやさしい材料といえます。

抜群の高性能被膜

ウレタン樹脂の特性を生かし、強靭で柔軟な被膜を形成し、驚異的なひび割れ追従性（20㎜以上）、抗張積（2670N/㎜）を備えています**（下写真参照）**。

また、専用プライマーにより、磁器タイルのような吸い込みの少ない下地へも強固に接着し、タイルの剥落の予防に寄与します。





優れた施工性

すべての構成材料は、１液型のため煩雑な混合作業は必要ありません。壁面施工でもダレ難く、適度なレベリング性により、フラットな仕上がりになります。

防カビ・防藻機能

防カビ・防藻機能を付与しており、不快なカビや藻の発生を抑制します。

施工仕様

工　程		使用材料	塗布量(kg/㎡)	塗布回数	塗布間隔(目安)	塗装方法
1	プライマー	スカイコートWプライマー	0.1～0.2	1	春秋　約2時間 夏　約2時間 冬　約3時間	ローラー
2	防水層①	スカイコートW防水材	0.2～0.3	1	春秋　約3時間 夏　約3時間 冬　約5時間	刷毛、ローラー
3	防水層②	スカイコートW防水材	0.2～0.3	1	春秋　約3時間 夏　約3時間 冬　約5時間	刷毛、ローラー
4	トップコート	スカイコートWトップ	0.1～0.2	1～2	―	刷毛、ローラー

高い防水性に加えて、意匠性の確保や、施工性の高さなど、各方面で多大な評価をいただいております。

『スカイコートW』のご注文、お問い合わせは、躍進までお気軽に。ご連絡をお待ちしております。

木材劣化診断士の活躍に期待

床下点検に多くの実績がある躍進には現在、４人の**木材劣化診断士**がおります**（写真参照）**。これまでに多くの実績を重ね、さらなる期待を集めています。

木材劣化診断士は、木材の生物劣化（腐朽と虫害）の診断技術の専門家です。
外構の中心となる木質構造物の生物劣化の現況を診断する様々な能力を有しています。
また、補修や修理に関する助言、改修や維持管理に関する助言を行うことができます。

木材劣化診断士が習得した診断技術は、住宅などの劣化診断にも適用可能です。住宅と外構の劣化のポイントをおさえ、木材とその劣化、構造別の劣化の特徴を把握しています。

そんな躍進の木材劣化診断士は、「**お客さま第一主義**」を徹底しております。
すべての仕事は、まずお客さまありきです。何事も、お客さまからスタートしなければならないのです。
まさに、「お客さま第一主義」こそ、木材劣化診断士の原点と心得ております。

常に、お客さまの立場に立って、物事を考えます。
そして、お客さまのニーズを掴み、それにすばやく的確に応えることが躍進の使命・責務と考えております。

「地域のホームドクター」ならではの活躍

また、躍進の木材劣化診断士は、「**地域のホームドクター**」として活躍中です。

躍進は「地域のホームドクター」として、地元を中心に、多くの皆さまの暮らしを見つめてまいりました。
幸せなホームを実現するには、その入れ物であるハウス（住宅）が健全でなければなりません。そして、肝心なのは、治療だけでなく、「**住まいの予防医学**」を実践することです。

その中でも、床下点検は、「住まいの予防医学」を実践する「地域のホームドクター」である躍進のまさに背骨ともいえる部分です。

シロアリや腐朽菌によって、食害・侵食された家屋の耐久性は、著しく低下します。耐震強度も下落し、新築当初の性能は保証できません。もし大きな地震等に遭い、家が傾くほどの損傷を受けた場合、その資産価値はゼロになってしまうのです。

そのため、床下点検を行い、土台や束などの木材の状態をチェックし、適切な処置を施さなくてはなりません。
その最前線で活躍しているのが、躍進の木材劣化診断士であり、「地域のホームドクター」としての役割を果たしているのです。

床下点検は、前述の通り、まず土台や束などの木材の状態をチェックします。
点検で蟻害や羽蟻の発生を確認するのですが、浴室などの水周りだけでなく、玄関にも羽蟻が発生しやすく、見落としがちになってしまいます。

こうした点を満遍なくチェックするのが、「地域のホームドクター」なのです。そして、「住まいの予防医学」の実践に邁進し、「地域のホームドクター」ならではの活躍をしています。

床下点検からはじまる「家の安心・安全」は、「お客さま第一主義」の躍進におまかせを。ご依頼、ご相談などお気軽にご連絡ください。

トイレを考える　住宅コラム

今回は、トイレについて様々に考えてみたいと思います。
まず、よく「自宅のトイレは２つあったほうがいい」という声を聞きます。理由は、もし何らかの形で故障したら本当に困るから、予備として2つ目がほしいというものです。

それを裏付けるアンケートが2015年5月に行われていました。メガソフト株式会社（本社・大阪市）は、同社が運営している家づくり情報Webマガジン「イエマガ」の人気コンテンツ「サポーター発クチコミ」において、トイレに関するアンケートを実施したのです。

アンケートのテーマは「トイレの間取りと使いやすさ」で、その中でトイレの数について尋ねたところ、「トイレは2箇所」が84%（70人中59人）を占めたのです。
同調査は、2007年7月にも実施しており、その時も「トイレは2箇所」が58%（93人中54人）を占め、最多となりました。

確かに、湯沸かし器が故障しても、修理まで何とか我慢できますが、排便・排尿は、5分と我慢できません。しかし、トイレが2つあれば、そういう不安が解消されるわけです。

マンションではあまり見かけませんが、戸建ての分譲住宅なら、1階と2階にそれぞれトイレが設けられている間取りを見かけます。当然、注文住宅ならトイレを2箇所に設計することは可能であるため、設計プランに積極的に取り入れるべきではないかと思います。

衛生面、感染リスクに対して関心が高まる

また、このコロナ禍の影響で、トイレ利用に関しても変化がみられるようになりました。

これについて、パナソニック株式会社ハウジングシステム事業部は、新型コロナウイルス感染拡大後の在宅時間増加に伴う自宅のトイレにおける意識の変化についての「トイレに関するアンケート」を実施しました（調査方法：インターネットによるアンケート調査、調査期間：2021年4月8日から9日、対象数：310人）。

その結果、「トイレ後に便ふたを閉めてから流す人」と、「せっけんで手洗いする人」が半数以上に達していることがわかりました。

「新型コロナウイルス感染拡大後、便ふたを閉めてから流すようになりましたか？」という質問に対して、「はい」と回答した人の割合は24.5%に上りました。これに「以前から変わらず、閉めてから流している」と回答した人の割合（34.5%）を合わせると59%になり、ふたを閉めてから便を流す人の割合が過半を占めました。

「新型コロナウイルス感染拡大後、ご自身が用を足した後の手洗いの方法に変化はありましたか？」の質問に対しては、新型コロナウイルス感染拡大後にせっけんをつけて洗うようになった人は34.7%に上りました。大便の時のみ及び以前から実践していた人を含めると、せっけんを使って手を洗っている人の割合は57.7%を占めています。

このコロナ禍は、「場合によっては20年続く」と指摘する専門家もおり、生活習慣の根本的な見直しを余儀なくされています。特に、トイレについては、最も「家庭内感染が気になる場所」と言われているため、極めて注意が必要です。

お施主さまの幸せな住まいづくりを実現する工務店、ビルダー関係者は、こうしたことを踏まえて、家庭内のトイレの数を複数確保することだけでなく、より衛生的なトイレの利用方法、間取りなどの提案をしていくべきだと思います。

株式会社 躍進
本社 〒337-0043 埼玉県さいたま市見沼区中川106-1 TEL048-688-3388 FAX048-680-7615
東京営業所 〒107-0062 東京都港区南青山2-2-8 DFビル2F TEL03-6804-2541 FAX03-6804-2542
URL=http://www.yakushin.jp　E-mail=yakushin-no1@nifty.com
関連会社 不動産事業 株式会社ヤクシンジャパン
関連会社 株式会社 First Arrows ファーストアローズ
事業内容
防水工事：FRP、ウレタン、塩ビシート、ゴムシート、アスファルトシーリング、注入、ピンニング、シングル葺き
木材保存工事：床下点検、シロアリ駆除及び予防、調湿剤、床下換気 等
塗装工事：各種塗装
外部点検：屋根、陸屋根、バルコニー、外壁 等診断